

保健・医療・福祉の連携に関する研究

分担研究者 日暮 真（山梨医科大学）

研究協力者 落合 靖男（沖縄県整肢療護園中部分園）

竹下 研三（鳥取大学医学部），武田真太郎（和歌山県立医科大学）

辻 敦敏（山梨医科大学），林 茂男（湘北短大）

山崎 晃資（東海大学医学部）

障害児の治療ケアは近年大きく様が変わりを遂げようとしてきている。脱施設化、治療からケア、ケアより自立へ、療育サービスの地域拡散等々。本研究班は、健診を通してみつけられた障害児のための療育サービスの地域拡散の方法を、従前よりある社会資源を活用する方向で模索する目的で組まれた。療育サービスの地域拡散の具体的展開として、センター病院施設で待つ専門家ではなく地域へでてゆく療育の模索を検討するため、まず以下の諸点に関する調査研究を実施した。

- (1)健診事後措置における児童相談所の役割と評価
- (2)医療と福祉の連携をはかる一モデル機関の実態
- (3)医療・福祉資源の乏しい沖縄県離島における心身障害児療育システム
- (4)先天性心疾患児のケア
- (5)和歌山県における1才6ヵ月児健診と事後措置の実態
- (6)「障害児保育」と「保育所における育児相談」の実態と問題点

健診事後措置における児童相談所の役割と評価に関しては、健診の場で臨床面を担当している医師・保健婦側で児童相談所の機能がよくみえていない事、児童相談所の臨床機能が必ずしも高くない事、受診者側に児童相談所へまわされることへの抵抗がある事等の指摘があった。

医療と福祉の連携のうまくいっているモデルとして、障害児の通園施設である東京都立多摩療育園の紹介があり、そこにおける障害児のなかみ、紹介経路・療育内容の報告があった。

沖縄県の離島における障害児ケアのシステム紹介では、医療・福祉資源の乏しいなりの工夫・知恵が紹介された。

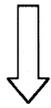
心疾患児のケアについては、検査・治療体制は比較的整備されている反面、“生涯病”としての先天性心疾患児の心の問題に対する対応のおくれが指摘された。

和歌山県における1才6ヵ月児健診における事後措置の実態報告では、そこでの早期発見し得る状態が果して整えられているか否か、医療・保育の両面からみて早期療育の現状はどうかについて論ぜられた。

「障害児保育」の実態調査報告では、指定保育所方式から障害児助成方式に切り換えられたための弊害、保育所における障害児療育能力向上のための対策は何か、地域内の各種相談機関との有機的連携の必要性等が論ぜられた。

「保育所内の育児相談」の実態については、神奈川県内の調査に関して中間報告（回収率32,0%の段階）が行なわれた。

個々のより詳細な報告については、以下にそれぞれ分担記述した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



障害児の治療ケアは近年大きく様が変わりを遂げようとしてきている。脱施設化、治療からケア、ケアより自立へ、療育サービスの地域拡散等々。本研究班は、健診を通してみつけられた障害児のための療育サービスの地域拡散の方法を、従前よりある社会資源を活用する方向で模索する目的で組まれた。療育サービスの地域拡散の具体的展開として、センター病院施設で待つ専門家ではなく地域へでてゆく療育の模索を検討するため、まず以下の諸点に関する調査研究を実施した。

- (1) 健診事後措置における児童相談所の役割と評価
- (2) 医療と福祉の連携をはかる一モデル機関の実態
- (3) 医療・福祉資源の乏しい沖縄県離島における心身障害児療育システム
- (4) 先天性心疾患児のケア
- (5) 和歌山県における1才6ヵ月児健診と事後措置の実態
- (6) 「障害児保育」と「保育所における育児相談」の実態と問題点